

『4回の交流会を終えて』 …… 心と心 「感謝」のキャッチボール

「障害者施設と地域の架け橋交流事業」の障害者施設をサポートしている団体・研究者等を調査し冊子にまとめる事業の過程の中、先ずは広く、施設の方、障害者の親御さん、施設をサポートしている団体等から事業に対するご意見を頂戴すべく交流会を重ねてきました。

第三回目の交流会では、「北九州市障害者福祉ボランティア協会」の遠山さんをお招きして、障害者福祉ボランティア協会の事業、ボランティアコーディネート等のお話をお聞きしました。意見交換中、施設のボランティア受け入れの考え方について白熱した状態になりました。

「ボランティアさんが来て迷惑な場合がある。」

「草取りなど指定された作業を静かに作業して頂きたい。」

「お手伝いの意識で来てくれると嬉しい。」

「ベテランのボランティアさんの中には、ボランティアだぞ！といった姿勢でおみえになる方がいる。」

「ボランティア側は“使われている”事を分かっていないといけない。」

「せっかくボランティアに来たのだから障害者の方と接したい。」

「ボランティアさんにも権利がある。」……等々。

ご意見をお聞きしながら感じた事は、ボランティアさんには、障害に対する正しい知識、施設の職員や利用者に対するコミュニケーション能力など個人の資質の課題。さらにボランティアをさせて頂いているという謙虚な「感謝」の姿勢が必要である事。施設側・利用者さん側にもボランティアさんを見分ける能力、貴重な時間を使ってボランティアをして頂いているという「感謝」が必要である事。

ボランティアと施設相互に「感謝」「感謝」のキャッチボールが出来ている状況がお互いにとって心地よい状況を生み、ボランティア活動を継続し有意義な活動とする為には「学ぶ姿勢」と「コミュニケーション」が必要である事を改めて痛感しました。

あるボランティアコーディネーター研修会の記事の中に、『施設は、“ノーマライゼーション社会を作る先頭にいる”との認識を持とう。開かれた施設になることで、地域からの協力を得られる。ボランティアは、“あなたの仕事の通訳者” “利用者と社会をつなぐ通訳者”です。施設の理念・ミッションを意識して仕事をしていますか？ ボランティアをミッション達成の賛同者に！職員はボランティア市場でのセールスマンになるう！』という文面がありました。

ボランティア活動は、社会、施設、ボランティア個人それぞれにとって多様な価値を持っています。この価値を埋没させないためにもボランティアをする側・受け入れ側双方に心地よい状況をつくる努力が必要です。 瀧懸はまゆう太鼓 中西

(社)障害者福祉ボランティア協会 URL:<http://www.ksjc.jp/ksvk>

市民有志による、障害福祉を中心としたボランティア活動の推進機関です。

〒804-0067 戸畑区汐井町 1-6 ウェルとばた 6F

電話：882-6770 FAX：882-6771 メール：XLZ02133@nifty.ne.jp